

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800477		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 久米		
所在地	岡山県久米郡久米南町上神目436		
自己評価作成日	令和4年 3月10日	評価結果市町村受理日	令和4年 6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和4年 3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎日、リハビリを兼ねて歌謡体操、ラジオ体操、外気浴、散歩
②季節に応じた外出支援
③季節のイベント、ボランティアの慰問
④提携医の定期的な往診、24時間体制
⑤サヨ-薬局の居宅療養管理指導を受け正しく服薬でき病気の進行予防ができる。
⑥地域小学校行事の参加、小学生、中学生訪問交流
⑦ボランティアの受け入れを積極的に行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では社名の桜梅桃里を基本に、認め合い・助け合い・尊敬する家族のような温かい暮らしを支援している。認知症の理解を深め、思いやりと優しさを大切に個々に沿った対応を心がけ、サービス会議で利用者への統一したケアを検討し実践につなげている。利用者の思いに寄り添い、洗濯物たみ・食器拭きなどの役割や季節行事などの楽しみごとを工夫した支援で、利用者の表情や会話を引き出している。職員は家族に日頃の様子を利用者の言葉を用いて手紙を書き、写真を添えて伝える工夫で、家族の安心感が得られ信頼関係を築いている。事業所では職員間のコミュニケーションがしっかりとれており、管理者は職員の話をよく聴き、意見を反映させて職員の意欲向上へとつなげている。(感染予防のため書面・電話聞き取りにて評価施行)
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社名の桜梅桃里を基本に認め合い助け合い尊敬する家族のような温かい雰囲気の中で暮らせる生活をする。	理念を事務所に掲示し共有している。また入社時に事業所理念の指導を行っている。職員は認知症の特性を理解し、利用者の話を傾聴して個々に応じた支援に取り組んでいる。2ヶ月毎のサービス会議や気づきがあれば適宜振り返りや話し合いを行い、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議など地域の方とグループホームが孤立しないように意見を頂いている。また、地域の園児や児童生徒が、年に数回訪問している。学校行事にも参加させて頂き交流している。	町内会に所属し、溝掃除や草刈りなどの活動に参加している。今年度はコロナ禍の為、事業所と地域との交流は困難な状況にあった。地域住民から入居などに関する問合せがあれば対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年、認知症理解の講演は実施できていない。コロナが終息したら地域の方をお招きして行事を行いたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、自治会、愛育委員の方から意見を聴き取り反映するように努めている。薬剤師の先生にも参加させて頂きサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため運営推進会議の開催が困難であり、中止のお知らせと入居者状況などを文書報告とし家族や市に発送し、随時意見を伺うように働きかけている。家族から面会への意見があり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは頻りに連絡を取り、また行政が行うケア会議・講習等にも積極的に参加をしている。	管理者は行政担当者と頻りに連絡や相談を行い、介護保険の更新などはケアマネが窓口となり連携を図っている。市からはコロナ感染症に関する情報提供などがある。事業所が依頼して毎月利用者用の久米南町の広報誌を市の職員が持参してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉は施錠しないで、玄関等は常に解放し、入居者様が自由に入出入りできるようにしている。	3ヶ月に1回、身体拘束等の適正化委員会を開催し、職員へはケア会議で内容を周知している。年2回講師を招いて講習会を開催し、外部講習にも参加し伝達講習をしている。すぐに駆け付ける、見守って納得いくまで付き添うなどの対応で、利用者に寄り添い、話を傾聴・同調しながら、本人に合わせた支援で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議や外部講師をお招きして勉強会をしたり、日常のケアについて検討している。虐待防止委員会を2ヶ月に1回会議を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キャリア形成訪問指導事業を活用して、成年後見制度の基本的事項についての研修に参加し理解を深めて活用できるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、身元引受人様の要望等を十分に考慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン作成前やお渡しするときにご家族の意見等をお伺いし普段の生活や行事に反映している。また、運営推進会議の意見も反映させている。	利用者からは日常生活の中で要望や意見を聴き、洋服や食べ物などの買い物に反映させている。家族からは電話や来所時に要望や意見を聴き、職員や法人で検討し対応している。門扉の施錠への意見や利用者への言動の統一を図って欲しいとの要望があり、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス向上会議や人事査定面接時に職員の意見を聴き取りしている。また、管理者会議を2ヶ月に1度開催し意見を反映させている。	面接やサービス向上会議などから職員の意見を把握している。利用者への関わり方・人間関係などの相談、勤務希望などに応じ、要望に添うように努めている。職員の体調不良時や気になることがあれば管理者は随時個々に声かけを行っている。事業所では年間行事表を作成し、職員が中心となって行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他の営利介護事業所よりは、給与・待遇は良い体制である。また、職員が金銭的に困窮時も法人としての援助体制がある。勤務しやすい体制を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を1年間を通して受講できる体制が作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の呼びかけで、近隣のGHや在宅会議サービス事業所が不定期ではあるが勉強会や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、本人と必ず面談を行うのが基本になっている。計画作成者が自宅や入院先へ複数回訪問し、ご本人・家族の訴えを傾聴し人間関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家族の状況を把握できるよう何度か面談を行う。ホームで出来ること、出来ないことを説明しできるだけ要望に添えるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の相談の中からグループホーム入居が適切なのか見極め必要性を明確にし、本人家族にとってグループホーム以外の施設が適切と判断したなら他施設への方向性をご家族に伝え協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な分野を利用して頂き、畑作業や遊び・言葉・昔ながらの知恵を教えていただきながらお互いに学び、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様担当スタッフを決め、家族と連絡を取り合い、面会や外出をお願いして入居者様の心のケアの支援を行っている。2か月に1回和楽だよりとして入居者様の普段の様子を書いて郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者に対して、気軽に面会できる雰囲気作りを心がけ、昔ながらの知人や友人が面会に来られ楽しく過ごせるように支援している。	入居時に本人や家族、ケアマネの情報からこれまで大切にしてきた馴染みの関係を把握し、職員間で共有している。コロナ感染症の状況に応じて、家族・近所の人・職場の同僚などの面会を行っている。定期的に電話を取り次ぎ話をする人、個人で携帯電話を所持している人、年賀状のやり取りをする人などがいる。職員は利用者の日頃の様子が伝わるように本人の言葉を用いて手紙を書き、写真を添えて家族に郵送し、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないようレクリエーションを行う際に、トランプ・かるたなどは職員が間に入り他者との交流が持てる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、今後も何かあれば可能な限り相談や支援をさせて頂くことを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の言動を観察し本人の意向希望の把握に努めている。サービス計画書の作成には職員のプランを含めて検討できるよう各ユニットで、サービス向上会議を行っている。	職員は日頃から利用者に視線を合わせて話を傾聴し、思いや意向の把握に努めている。利用者の表情から気持ちを汲み取り、スキンシップや意思疎通を図り、円滑で楽しいコミュニケーションが取れるように心がけている。把握した情報は利用者の言葉をそのまま記録に残して情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族から今までの生活の様子を伺って、各職員が資料を読み把握し対応するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者様の生活のリズムを大切に食事時間や食事場所、過ごし方等本人にお聞きし支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞いて介護職員と話し合いを行い、出来るだけ要望に添った計画で支援している。	本人・家族からの情報や要望を基に、職員と話し合いを行い介護計画を作成している。カンファレンスシートを活用して3ヶ月毎にモニタリングや見直しを行い、状態に変化があればその都度柔軟に対応している。医師や薬剤師にも相談し、意見を参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自が気づいたことや工夫を個別に記録して職員全員が実践に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望や家族の状況に合わせて、可能な限りご希望のサービスが提供できるよう柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期ではあるが、色々な分野のボランティアの方に来て頂き楽しんでいただいている。毎年中学生の職場体験を受け入れている。また小学5年生の交流と認知症／介護職員の仕事についての勉強会を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(嘱託医)に毎週水曜日に往診に来ていただいている。転院を希望されない方は今まで通り、希望の病院へ通院している。	入居を機に希望で事業所の協力医へと移行し、週1回の往診を受けている。夜間・緊急時も適切な医療を受けられるように対応している。基礎疾患のある利用者に対しては医師の指示や指導のもと、徹底した管理に努めている。歯科は希望により往診対応が可能で、他科受診は家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、入居者様の状態を職員から情報収集して健康管理に努めている。必要な場合には、嘱託医連絡し指示を受け対応している。職員にも知識や対応について看護師が指導をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師やソーシャルワーカーへ情報提供を行い早期退院ができるように協力している。週1程度お見舞いに行き、ご家族とも情報交換を行い病状の把握とご希望であれば洗濯代行も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当施設で対応できる最大の支援内容をご家族に説明しご理解いただいている。状態が悪化された場合には、嘱託医からご家族に状態の説明をしていただいている。ご家族と職員と何度も話し合いの場を儲けご家族の希望に沿って対応している。延命措置に関する意思確認書も何度も確認し変更があった場合は直ちに変更し対応している。	契約時に事業所での対応を説明している。重度化した場合は医師から家族に説明を行い、職員は家族とその都度話をして、意向を確認しながら要望に添った支援に努め、看取りの対応も行っている。事業所では講師を招いて看取りの研修を開催し、マニュアルの作成や医師との連携などで、職員の不安を解消し、安心して支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し緊急時の対応に備えている。使用手順を職員同士で再確認している。救命講習を定期的実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、日中と夜間避難訓練を行い消防署・消防団員の方に参加頂き、入居者様が安全に災害時に避難できるように支援を行っている。運営推進会議等で災害(地震・水害)の対策についての話し合いの場を儲け研修会の情報や避難場所の確認を行っている。	年2回夜間想定も含めた消防訓練を利用者も参加して実施している。職員は利用者の状態に合った誘導を行い、利用者も落ち着いて避難行動をとることが出来た。地震・災害時は事業所が地域の高齢者の一時的な避難場所となっている。町の日用品の備蓄が倉庫に確保されているが、事業所の食料品の備蓄は確保できておらず、検討中である。	災害時の対策として、食料品の備蓄を確保し、利用者と職員の安心につながることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを基本にプライバシーの確保に努めている。サービス向上会議で、一人ひとりの対応を検討し職員の意識の向上を図っている。	入社時に守秘義務の説明を行い、誓約書も交わしている。職員は利用者を敬い、言葉遣いに留意し、親しみやすさや反応のよさなどから話し方や呼称を個々に応じて対応し、場合によっては家族の了承も得ている。特に排泄や入浴介助では羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者様に応じての声かけを行い、できるだけ自己決定ができる声かけや会話の中からご本人の思いや希望を聴き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、無理のないようなるべく自宅と同じように、その方の生活リズムで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の有資格者がおり定期的にご本人やご家族の希望に合わせてカットや毛染めを行っている。外出のできる方は必要に応じて必要な物品購入の為に外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、配食サービスを利用しているので食事作りを一緒にする機会は少ないが不定期で配食を止めて入居者様の食べたい物をお聞きして一緒に調理をしている。食事の配膳や食器洗い・拭きは入居者様にもして頂いている。	配食サービスを利用し、ご飯・お粥・汁物は職員が手作りしている。行事の時などは配食を停止し、利用者の要望に応じて、寿司・炊き込みご飯などを提供している。おやつにたこ焼きやお好み焼きを作ったり、バーベキューを楽しむこともある。食器拭きなど利用者が出来る事を安全に配慮して職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスで高齢者の摂取カロリーで管理されている。水分摂取表を用いて水分摂取量は1300ml以上摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、眠前には義歯を外し義歯洗浄剤に一晩浸けるよう支援している。できる限りご自分でできることはご本人に行っていただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表に基づき個々に合った排泄介助を行っている。定期的に排泄誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援を行っている。	排泄表に基づき、排泄パターンを把握して声かけや排便調整を行っている。日中はほとんどの人がトイレを使用し、夜間は睡眠を優先したり、ポータブルトイレを使用するなど利用者に応じて対応している。紙パンツに拒否がある人には早めの声かけ誘導で支援している。体操やストレッチ、散歩などで筋力低下を防止しトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表及び水分摂取表に基づき水分を1日1300ml以上摂れるように管理している。個々に応じた軽い運動ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助表に基づき最低週3～4回は入浴できるように個々に合わせた援助をしている。ご本人の体調や気分により入浴できなかった場合は清拭で対応している。	2日に1回の入浴を支援し、毎日入浴を希望される人にも対応している。汚染時には時間に関係なく入浴している。入浴を嫌がられる人には清拭や足浴を促したり、時間をあけて声かけを行っている。季節の柚子湯や職員と二人きりの会話が利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻は厳しく規制せず個々に合わせている。不眠であった方に対しては、居室で午睡等で休息をとっていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬の説明書を薬局よりいただき、職員がいつでも目が通せるようにしている。更に詳しい説明書が必要と思われる場合はインターネットで情報をダウンロードし連絡帳に記載している。服薬の際には、服薬手順に添って服薬管理を厳重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣向に合わせてご本人の意思でレクリエーションが行えるように支援している。ご本人の了解を得て、できあがった作品をホールや居室に展示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	欲しい物や必要な物がある場合には、希望に添えるように外出支援をしている。職員の勤務体制でやむを得ず外出介助できない際は、ご本人にその旨を説明し、配達や日時を改めていただくか、ご家族にも協力して頂いている。	コロナ禍のため外出は自粛しているが、紅葉見学にドライブに出かけ、車中から眺めることができた。敷地内での散歩や花見、ベンチに座って日光浴やお茶を楽しむなど、戸外に出る支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し希望される入居者様は所持して頂いている。買い物と一緒にいき、支払いも本人ができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用して頂いている。かけられない方は、職員が支援し電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには自宅と同じように生活感のある雰囲気になっている。季節に応じた花や入居者様の作品を飾っている。利用者が使用するものは、手の届く所に置いて自由に使っていただいている。	ホールには塗り絵や雑誌・漫画などが置いてあり、季節に応じてひな人形などを飾り、自宅と同じような生活感のある空間づくりを工夫している。中央にあるテーブルで利用者は雑談やお茶などを楽しんでいる。こたつが設置された和室もあり、利用者は横になって過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間として自由に和室で横になれるようにしている。またご家族との団欒の場として使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の慣れ親しんだ家具や装飾を置いている。家族にも馴染みの物を置く必要性を日頃から説明している。居室や共用スペースにも入居者様と職員で飾りつけし自分達の部屋として工夫している。	自宅で使い慣れた家具や品々が持ち込まれている。入居前に家族と相談してレイアウトを決め、自分でできる人は本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。テレビを持ち込んでいる人が4人いる。利用者の状態が重症化すれば職員と考慮して、利用者の安全を配慮した配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得て自分の居室と分かるよう名前をつけたり、必要に応じて自分の居室とわかる飾りつけをしている。トイレには大きく便所と表記している。手すりを設置し、安全に行動できるように支援している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災訓練は、年2回の訓練で徹底できているが、地震・水害等の災害に対する意識や理解ができていない。	災害時の避難場所へ避難訓練をする。地域で開催される会合にも参加し、役割や知識を習得する。	行政・地域の方が作成する災害避難マップを参考に施設会議等でシュミレーションや問題点を話し合う。ご家族、行政の方からの意見も参考改善点があれば、その都度、話し合い改善していく。施設の備蓄を充実させるよう努める。	12か月
2	33	ターミナルケアに向けて、職員教育や体制作りが不可欠である。	入居者様、ご家族へ頻繁に聞き取りを行い、思いを尊重した支援を行う。医療機関との連携体制、職員教育、人員体制を整える。	可能な限り最大限のケアと急変時に迅速な対応ができるようターミナル期に移行したら、緊急時対応手順をケアマネ、看護師と話し合い作成する。作成した対応手順に沿って行動が出来るよう各自がシュミレーションを行い緊急時の対応に備える。緊急当番を徹底する。	12か月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input checked="" type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input checked="" type="checkbox"/> ④その他( ご家族へ評価結果を郵送(内容についての文章も)、市町村へ評価結果を提出 )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input checked="" type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input checked="" type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )